歴史的な道

自動車が一般的になる以前、上勝には二種類の道がありました。往還と里道です。往還とは集落間の主要な道路のことで、里道とは個々の家や農場を結ぶより狭い小道のことを指します。1813年の地図にも見られるこれらの道は、今日に至るまで使用されており、自動車がなかった時代の生活を垣間見ることができます。

現代の主な車でのルートはたいてい平地に沿ってありますが、1800年代には主な交通網はしばしば峠や丘陵地帯を通っていました。それらの交通網はまた、平面を優先させるより、徒歩での移動距離を最短にするため、半分耕された丘陵地と平坦な農地の境目である里山をくねくねと通り抜けていました。このような交通パターンから、山中の峠に隣接して集落が形成されるようになりました。また、山中で作られた炭を檜原の村に運び下ろすための幹線道路もありました。